

中島雨水ポンプ場

所在地：愛知県岡崎市中島町字川田」43番地1

岡崎平野はもともと矢作川及びその支川の氾濫原であり、川の流れは自然の地形勾配に沿って矢作古川の位置を流れ下り、三河湾へと注がれていた。

岡崎市南部の中島地区では、2000（平成12）年の東海豪雨や2008（平成20）年8月末のゲリラ豪雨などにより、甚大な浸水被害が発生してきたという経緯があった。2000年の東海豪雨では安藤川の支流が氾濫し、周辺の144世帯が浸水被害に遭った。中島雨水ポンプ場の排水区域のうち、主に浸水するのは、字「紅蓮」（こうれん）と字「流」（ながれ）の2つの区域である。

岡崎市南部は長い間、農業地域として発展してきたところであり、これまでは田んぼが雨水の保水機能を果たしてきたという側面があった。しかし、元々の地形が平坦な農地であるため、増水によって河川の水位が上がると、雨水の排水ができなくなるという難点もあった。しかも、近年の急激な宅地化による農地の減少と異常気象による局地的豪雨の頻発によって、中島地区においても度重なる浸水被害が発生し、地域の重要課題となってきた。

こうした浸水被害を解消するために一級河川・廣田川の改修が行われ、これにより下水道事業による雨水排水整備も可能となった。そこで新たなポンプ場建設計画が策定され、2011（平成23）年より建設工事が始まり、2015（平成27）4月に完工式が行われた。

中島ポンプ場は総事業費が9億6,200万円で、敷地面積が840平方メートルである。中島ポンプ場は3台のゲート・ポンプ設備により毎秒3.4立方メートルの排水能力がある。鉄筋コンクリート構造の建物の中には非常用の自家発電装置を備えており、停電した折にも20時間は排水を継続できる仕組みとなっている。今回中島ポンプ場が完成したことによって、当地域の長年の懸案事項であった浸水被害が解消・軽減されることが期待されている。



